いわき民報

發行所　いわき民報社
平市田町四八番地　電話一三六番
編輯兼發行人　千輝克巳
印刷人
（但月曜を除く）
定價一月十五円一部五十錢

後援會も結成

獨自で水産高校へ

小名濱水産校の昇格案決る

小名濱町の縣立水産學校は地元小名濱の高等學校昇格案とは全然切り離れて各漁業家の全面的後援のもとに水産高等學校として獨自の立案のもとに新發足せしめる事に去る十八日小名濱水試で開かれた、小名濱、江名、四倉等の各濱關係者との協議會の結果決定された、これがため學校舍の一部改造と備品等の設備は二百萬圓で行い、此の半額は縣費で負擔されるので殘る半額は各漁業關係者に於いて負擔することゝしたので、今度後援會も小名濱町の水野政次郎氏を會長に結成した

石炭特別勞働委員會

あす結成打合會を

縣地方勞働委員會內に今度石炭に關する權威のある石炭特別勞働委員會を特設、ヤマに關する勞働問題一切はこの委員會で處理しようと、かねて設置の計劃中だつたがいよ〳〵二十二日平職業安定所で打合會を開くが、當日は縣炭協東部石炭鑛業連盟等々をはじめ勞資双方の關係者團體を網羅して委員會の內容、運營、委員の選出等について協議、これに基いて早急に設置することゝなつた

海運局支局 建築費協議

小名濱町では東北海運局がいよ〳〵支局に昇格したのでこれが廳舍新築を急ぐため二十日委員會を開いて協議の結果建築費は江名から六十萬圓、豐間から五萬圓原釜から二十萬圓を募り不足額を地元からまとめることゝし、建築關係は漁業會と造船所側に一任することゝした

植田町供米割當日決る

植田町の供出米割當日は二十一日夫々決定供出完納につとめることになつた

プロ野球の雄

巨人、東急來る

二十三日磐中球場で

プロ野球の雄ジャイアンツ（巨人軍）とフライアーズ（東東急行軍）をへいして、本年掉尾を飾る野球戰は磐城スポーツ連盟の主催で、二十三日平市磐中球場で擧行する、當日は巨人東京急行の混合軍とオールいわ城チームとの一戰も交へられるので非常な人氣を呼んでいるが、東京急行軍は先般ドラゴンス（中部日本軍）と共に來平した事もある名手苅田久德君が二壘を守りつゝ監督する地方ファンに馴染は深いものである

投票による全磐城

プロ混成軍と一戰を交へる

巨人、東急兩プロ野球の混成軍と對戰するオール磐城チームのメンバー編成については一般ファンの人氣投票によつて行うことゝしスポーツ連で去る五日から投票を集めていたが十九日で締切りこの程開票した、二百余の投票の結果擧げられたメンバー左の通りで總監督には井坂氏、副監督安孫子氏、部長には石坂一雄氏、マネージヤーには水竹伊之助氏に擧げられた

◎投手　石坂（平）鈴木（常磐）海尾澤（田人）
◎捕手　森（常磐）高石（日水）川口（田人）
◎一壘　坂（田人）松崎（平）
◎二壘　涌井（常磐）茨野（平）
◎三壘　龜山（田人）佐藤（古河）
◎遊擊　矢部（常磐）柏原（日水）
◎左翼　吉田（常磐）鵜沼（平）
◎中堅　阿部（平）坂本（常磐）
◎右翼　高原（田人）上坂（日水）

眼鏡專門
各眼科醫指定
玉屋
平市二丁目TEL910

書道教授
白鷺書會　佐々木秋峰
平市南町三〇（上田醫院隣）

―◇松戸―平間◇―

電化問題採擇さる

平商工會議所が水戸會議所とタイアップ平市民を始め地方民の要望で運動中であつた松戸、平間鐵道電化問題に關し、かねて請願書を目下開會中の議會に提出していたが、政府當局もその必要をみとめ先月末鐵道委員會を通過した。同案は採擇と決定された旨二十一日橋本參議院議員から本社宛電報があつた

また六ケ村

供米部落割當

郡下の供米各部落割當の既に決定したのは川前をトップに勿來、澤渡、三阪、磐崎、鹿島の六ケ村であるが、他町村も兩三日中には決るものとみられている然し各町村とも今回の割當のきびしさには相當なやみを感じている模樣である

ランドセル 兒童に配給

市では小學生用ランドセル男子五百四十人分女子四百四十人分を配給する、一個百八十圓、十日から二十五日まで

割當過重だと辭任

泉村食調委員佐藤進氏が

泉村食糧調整委員佐藤進氏は供米の部落割當が過重でとてもやりきれないからと十七日付で吉田村長に辭表を提出した、村では二十日村長、日農の熊澤氏等が留任勸告したがまだ翻意をみない、郡下ではじめての事なので成行を注目されている

植田營林署 官營炭移出

植田營林署管內の政府買上木炭打合會は二十日同署で既業者參集の上官營木炭縣外（主に東京、横濱方面）移出を協議した結果本十一月から明年三月までに五萬俵供出する目標がついた、一俵の丸公は五十六圓五十錢である

磐城史話會例會

あす飯野盛男氏宅で

いわ城史話會の第一回例會は二十二日午後二時から飯野八幡神社の飯野盛男氏宅で開く、當日は例の全家秘藏の飯野古文書を特に全氏の好意によつて見學、研究家として知らるゝばんや猪俣金五郎氏の實地について解說指導があるほか來月の第二回例會について計劃案その他の檢討も行うとゝもに會員各自の研究その他をめぐつての懇談も行はれる豫定で期待されている

開拓用の地下タビ

受配區域決る

郡では本年第四、四半期開拓用地下タビを近く配給する、數量は三百六十二足、一足六十九圓五十錢、又特別斡旋によるもの千五百六十八足は一足百九十圓で、その受配區域は左の通り

泉、渡邊、植田、山田、勿來、上遠野、入遠野、川部、田人、鹿島、磐崎、赤井、永戸、箕輪、澤渡三阪、大野、上下小川、川前

早出米を完納

二十二年度產米政府買入早場米供出で內鄉町大字內町宮本一馬さんは一石二斗を十月三十一日に完納したこれが同町完納のトップ

鄉土復興運動

青年の手で强力に

市では運青その他と協力、今度强力な鄉土復興青年運動を展開することに決定、目下具体的計劃案の立案を急いでいる、右は危機にある祖國を救つて健實な文化國家の再建は青年の手に俟つほかはないとして、鄉土產業の開發、文化の振興から鄉土自治の民主化等々に活潑な一大推進運動を展開しようとのもので大きな期待をかけられている

廣野巡査表彰

植田警察署では田人村駐在所廣野慶治巡査が去る十月二十七日午後九時頃田人村大字黑田字別當四十五雜貨商齋藤軍治さんへ强盜に入つた事件に付き翌二十八日午前十一時三十分部落民と協力手配良好の結果强盜傷人犯前科四犯有本信夫（三七）を檢擧した功勞に對し此の程金壹封を贈り表彰

金即
和服洋服
買受
平市銀座紅小路
大崎屋
TEL69

郡の農地買收成績

既に九割達成

地方事務所管內第四期農地買收計劃による買收面積は二十日現在で八百五十町步田六百町步で買收豫定面積の九割に達した、今期のトップは泉村で田畑とも百十三町一反步で田はこのうち九十四町四反步であつた

教員野球 組合せ

あす平工平商兩球場で擧行

市內中小學校敎員野球大會は二十二日平工、平商兩球場で開くが、その組合せは左の通り

▲平工
第一小―ばん女
ばん中―一中
第二小―平工

▲平商
平女―平商
第三小―第四小

林業關係物資配給

郡下の林業關係並に生産者に作業用手袋二千三百三十四双、ゴム長八十三足、ゴム半長百十七足、地下タビ百八十三足を昨年度の實績に應じて近く配給する

常磐炭鑛の慰安演藝會

夏川姉弟招き

常磐炭礦では湯本自治會館で炭礦勞務者慰安のため二十二、二十三兩日晝夜三回ずつ夏川靜江、夏川大二郎姉弟の公演會を催す

營業種目
ボデー修理・機關製作修理
酸素よう接・板金塗裝吹付
緊急募集　熟練工二名
井上産業自動車整備工場
井上富久
平市大町36TEL719

演奏會

音樂同好會 あす湯本町で

東京音樂學校出身若松貴志子女史を始めに若松光一郎、織內平八、山本忠夫氏等を中心に會員六十名で結成した湯本町音樂同好會は每月一回ずつ音樂會を開いて研究につとめているが第三回は二十二日午後五時半から表町若松女史宅に開くプロは左の通り

◎ピアノ　大平曉子
◎四重奏　高木都子　大平曉子、井上曉生　平澤莊司
◎ヴァイオリン　織內平八
◎ピアノ　若松貴志子

いわきす言

◎少年の犯罪增加誰の罪でもなし親と社會の罪

◎秋漸く老い大衆の顏にも深刻な影がいよ〳〵濃い

◎笑をいつか忘れてしまつた大衆を生まないように爲政家にお願い申す

◎警察官上りはヤミ屋相場はきまつたといわれるな

レントゲン科
內科
谷口醫院
平市一丁目四九（電八）

萬雷の喝采を浴びて
巨人阪東妻三郎と
守田勘彌（東京大歌舞技）
時代劇の神樣後藤大輔と組んで
錦秋の銀幕を飾る大映超大作
素浪人罷通る（すろうにんまかりとおる）
堂々廿五日より登場
皆樣の
世界館

YAMAKA
定評ある
ピンポン用具
ヤマカ運動具店
平市二丁目（電六〇五）

花柳流
舞踊
登柳會第一回公演
一、日時　十一月二十二日　晝正午　夜五時半　開演
一、場所　民衆劇場
お願とお知らせ
◇ヒルの部の會員券でヨルの部への御入場を固くお斷りいたします
◇ヒルの部の終演は四時三十分
◇ヨルは十時の豫定でございます

事務所移轉お知らせ
今般左記の處へ移轉致しました。何卒よろしくお願致します
建築工事一般の無料御相談に應じます御利用下さい
平市一丁目二五
株式會社　鈴木工務店
社長　鈴木芳義
電四六〇

第一回讀書話の泉
1、ポピユラー・サイエンス
2、新刊ソ聯抑留記の書名
3、サンデイ
4、希望の時刻
5、ジローブーチン日記
6、婦人雜誌名　五種
7、幸田露伴の著書　五種
七問中五問をハガキで讀書週間中に答へて下さい
「ささきほんやに望むこと一つ」を書添えること
正解百名にリー・ダイ十二月號
優先購入引替券進呈
發表　十一月二十五日店頭
正解者多數の時は抽籤
サヽキ・ホンヤ
角忠商店
本通二丁目

（二）　第四百七十四號　（土曜日）　いわき民報　昭和二十二年十一月二十二日　昭和二十一年六月一日（第三種郵便物認可）

現畫壇の新動向

藤谷雨道

所謂、戰後の、日本畫壇の新動向を檢討するに當つてまづわれわれはしづかに、自らの傳統を生きた現實の上にハツキリと、今一度これを把握し、さらに、藝術に於ける歷史の意義及びその歷史性に於ける特種な意味、即ち美術史の使命は全く他の文明史的領域とは、それ自身、既に異つた立脚點を有つものであるということ、つまり科學の如き抽象的なものは、つねに、歷史の到達點からの出發であり、累積であるに反し藝術部門に於いては、飽く迄これらが具体的である關係上、歷史の出發點に溯つてはじめなくてはならないという相違點を忘れてはならないのである、だから科學が時間的累積であるが藝術は全くこれと對しよし空間的存在であり、洗練を第一義とすることも亦當然と謂はざるを得ないであろう、かゝる本質的相違が既に歷史性の上に規定せられた藝術の宿命である限りに於いては今日果して如何なる方向に日本畫壇のより正しき展開が解決せられるであろうかの問題も、大方讀者に於いて自ら、明らかなところと謂はざるを得ない。

繪畫が、特に社會性を有するものであるということに就いては、その作品の有する內容即ち內在する作者の高き世界觀（普遍性）に依るものであり、それが直接、表現技術と完結してのみ、はじめて作者自身の人生に對する主張が客觀的にも確立されることになるのである。それ故にこそ先づ、作者の思想が問題であり、更に、長き傳統の洗練によつて咲いた藝術の華でなければならないのである謂い代へるならば、繪畫の定義が、單に「色彩された平面」の素朴丈では決して何等の意義も價値もあらう筈がなく、當然、藝術として今日のかん賞に耐え得る資格など有り得るものではないのである。

先考岡倉天心を指導者とする日本美術のアカデミズムは、一應、大正、昭和を通じて既に完成されたものと謂つても敢て過言ではあるまいと思ふ。雅邦、芳崖、觀山、大觀春草に依つて代表せらるゝところの近代日本畫の領域は、今日、玉堂、十畝等の官展派及び、古徑、靫彥の一見對立的存在の院展と二つの系統に區別さるゝの感なきに非らねど、かゝる政治的關係に於いては兎も角　指導精神に果して何程の差があるであろうか、その意味に於いて五十周年の歷史を誇る院展を分析すれば、當初の在り方と全く離れ、功成り名遂げた今日、何等の在野的精神も見當らずむしろあるものは、只院展調と稱せらるゝところの末梢技術によつて釀成さるゝ雰圍氣以外の何物でもないのである大觀は勿論のこと、古徑靫彥靑邨土牛岳陵は既に、院展の作家と稱すべく余りにも有名であり　全日本畫壇の代表的存在である、而も形式に於いてさへ綜合文展以來の全面的參劃及び、美術學校への進出等は明らかに、この間の消息を如實に反映するものとして決して見逃してはならない事實である、

さて、然らば果して現畫壇に於ける最も將來性を嘱目さるゝ作家とは、一体どの邊の人々であろうか、この提示に對しては、當然戰前、戰後を通じての、各作家の制作態度の再吟味に愼重を期し、特に、文展、院展等の出品作に對する批判をも併せてこゝに列記するの必要に迫らるゝ事情は、名作けつ作は決して一朝にしては成り難く　或いは又、天才は獨創的　個性的であると同時に、更に不斷の努力そのものの謂だからでありつねに、偶發的にあらずして、必然の當然の歸結だからである純正藝術に對する眞の探求者に對して畫面効果、或いは政治政策的作家を技術上からもハツキリと是を辨別することと、特にかん賞日本畫の使命は「床の間」本來の意味する精神生活、思想生活の場としての、日常生活の基準的存在が、傳統的にも實用生活からは一見、隔離せられた一段と高次の世界として取扱はれて來たその「床の間」の意義を更に決定づける藝術作品として、われ〳〵の日常の動的生活に對して、むしろ靜的本質の有り方に於いて、生活の中すらに「秩序」の根源として肅然たるべき存在だからである、

猶ほ、日を改めて、個々の作家論は本月十六日を招待日とする日展評によつて補足することとし、所謂、繪畫藝術の本質を追究し、日常生活の必然的要求の對象としてそれがせん擇の自由は當然かん賞者自身の特權であり健全なるかん賞体度に耐へ得る日本畫こそ即ち現畫壇の新しき動向を決定づけるものなのである。

（筆者は早大卒、美術評論雜誌の中央畫壇の主宰）

産婆實地見習　若干名
右御希望の方は御面談下さい
産婆　猪狩正子
（平市五丁目電四九一）

ヨイコ達表彰

湯本鑛東區仲良會が

常ばん炭鑛湯本鑛東區少年少女仲良會では結成以來家事手傳いや良い子としての立派な行を充分發揮した子供達へ二十二日常ばん小學校で朝禮の時に賞狀及び賞品を授けることになつたが榮えのヨイコは左の通り

高木濟臣、佐藤淑子、丸子光夫、志賀照代、長崎チヱ、佐久間照夫、矢崎アイ子、遠藤爵子、竹並美代子、加藤良子、紺野利江、越前光弘

外食券定食販賣價値上

外食券の定食販賣價格が二十四日から左の通りに改訂される

◎定食飯たき上り二六四グラム以上汁一合以上漬物十匁以上副食物一皿で朝食十圓（現行六圓五十錢）晝食十五圓（同十圓）夕食十五圓（同十圓）

◎パンの場合はとれに五十錢加算

平第三校生が本社を探訪

社會學研究で

平市第三小學校六年生根本哲四郎君外八名の社會學研究少年探訪記者は二十一日朝本社を訪れ、新聞發行に關し本社側を大要左の如き質問應答がありをはつて社內を見學した

質問　いわき民報發行の理由は
答、當地方に地方的ニユースを提供し政治、經濟、社會、文化各方面の發達に寄與したい目的である、
質問、社屋建設その他の經費はどの位かゝりました
答、百萬圓
質問、記者は何名ですか
答、五名
質問、どの方面から新聞記事をとるのですか
答、官公署學校公園、會社その他必要な方面から
質問　活字總數と一日使用する活字の數
答、八十萬本、一日使用する數一萬三千本
質問　印刷機械は何台ですか
答、大小三台
質問　原稿が出來てから新聞に成るまでの所要時間
答、約四時間
質問　全從業員は
答、二十五人

全國保育大會に臨み

2

平隣保館　中里たま代

お母樣方、幼稚園だから―隣保館だからという區別をつける考へをお棄てになつて下さい、保育の方針はどこも同じです、ひがみを與へないことも大事な事です、隣保館はたのしいよい子になるところ。お母樣方の大事な子供いや日本の大事な寶である子供を大事だから可愛いからと申して箱入り主義にすることは考へのまちがつた育て方です、幼兒は同年輩の友達と遊び其の中でもまれ〳〵て次第に一人前になつてゆくものです、遊びの中に友達同志がいろ〳〵の遊びをやつたり樂しく話し合つたり良く物を觀察したりいろいろの物を考へ合つたりして成長して參ります、恐い事ばかり覺えるからと言つて家の中大人の中にとじこめて外で遊ばせないと言う事は結極今度は人の中で口もきけない依賴心の強い社會慣れのしない子供となつてしまいます今は女子も男子も外で働かねばならぬ時代でありますそこで子供の時から集團生活を經驗させよろこんで集團の中に參加する樣にしなければなりません、何成長して社會に立つて自分の意志感想の發表ができ獨自の精神で進む事のできる人にしなければなりません、それには言葉の敎育が幼兒にとつて大事でございますそれで各家庭では隣保館の樣子をおかへりになつてからお話させ、又館では家庭での子供の生活經驗を發表させる事につとめます、子供はお話が大好きです、外の遊びにつかれた時床についた時、いやいつでも子供はお話を好みますその時は忙がしいだめ等と云はないでお話をきかせて下さい、お話は子供の心の糧になると申します、一番望ひます言ふものによつて子供を敎育するという事は大變に良いことです、又繪畫談話を通して發音の訓練をなし正しい話し方を養う事も重要な事です子供自身の話し方は、早口でなく正しい言葉で話せる家庭にかても館にかてもともに注意致しませう、それから保ぼのぼは女へんがなくなりました、保母となりました家庭のお母樣、私達は隣保館の母です、母の居る處常に暖かき慈愛の光さす樂園です。

機械工具
水道用具
高平商店
平市立町七

―◇映畫紹介◇―

松竹作品

若き日の血は燃えて

25日から平館

家城己代治監督、西川享のカメラの松竹作品

◇配役◇
南（高校生）山內明
小野（同）高橋貞二
戸川（同）杉山繁
權堂（同）諸角啓二郎
澤村（同）永井達郎
酒井（同）大阪志郎
淸水敎授　東野英治郎
寮のおばさん　飯田蝶子
文代　幾野道子

◇梗概◇

北國の空にそびゆる若者の殿堂　こゝ高等學校の生徒達も各地から復員して希望の瞳を輝やかせている。が、中にも蹴球部は南を得て漸く陣容を整えたが一方では學資續かず應援團長酒井は惜しまれ乍らも休學せねばならなかつた。

行く者復る者蹴球部の寮生達は悲喜合半ばして、今更に一致團結を心から誓ひ合うのだつた。だが一人小野はそうした仲間に入るにはあまりにも戰爭から敗戰えの段階に割り切れない多くの現實に直面して鬱々として授業中に鬼丸敎授に反駁したりして白眼視の中にもん〳〵の日を過しているのだつた。その小野の唯一の心のより處は街の酒場「紅雀」で女給をしている亡き友佐山の妹文代に逢うことであつた。

復校以來一度も顏を合せない親友小野の日頃の模樣を聞き、南は或る日尋ねあぐねた揚句「紅雀」にでいすいする小野を發見すると同時に意外にもそこに働らく文代の姿に亡き友を偲び純眞な若いけつべき感に心をさいなむのであつた。

蹴球部のグランドは地廻りの加納組の手で敷設されることになつているのだが、何故か費用ばかりかさんで一向に工事に着手される氣配はなく、蹴球部長の淸水敎授や南達をイラ〳〵させていたが、或る日校友自治會の席上で南は部員一同の團結と他部の應援の下に生徒達自からの手で工事をやり、工事豫算は生徒の救濟資金に振向けてはと提議して生徒達の手によつて難工事は着手されることになつた。

南は、文代を酒場などにべん〳〵と働らかせておくことは亡友に對する友情として默し難く、遠慮する文代を勵まし、寮のおばさんの下働らきにして貰うことに成功した、俄然紅一點を得て寮生達は大喜こびて毎日が樂しかつた。

文代に兼てから野心のあつた加納組の若旦那は奪はれた腹いせにどうせ學生の分際にできるものではないと高くゝつて、文代の前借千圓を返せと迫る、南は苦しんだ。

愛する文代のために苦しむ南の姿を見て、小野は秘かに大切な本を賣つて、その金を以前から南が欲しがつていた書籍を買えと案示してそれとなく南に金を渡す。

或る日、寮生全員は文代も混えて士氣倍揚のためピクニツクに出かけた小野は病氣だからと斷はつた。

肝心の蹴球部が女性を連れてピクニツク等に出かけるなどとは以ての外だ、と校友自治會の席上で他部は手をひく、と言いだした。

その夕暮、古木に圍まれた空地で南と小野は興奮の面持で相對した

そして文代を愛しているという言葉に喰い違つた友情の原因を知つた南は、文代とは何でもない誤解するなと言うが血氣にハヤる小野の耳には入らず格鬪となる。全ての友情を裏切られて傷心を抱いて佐山の墓標の前に佇ずむ南の肩に、何時來たのか文代が泣き伏した

或る日、高農蹴球部から試合を申込まれた南は停滯しているグランド工事の狀態を告げるが、逆にそんなことはお手のものとばかり作業應援を引受けられさしもの難工事も瞬く間に落成の運びをみるに到つた。

落成祝賀會の日、文代は寮のおばさんに秘かに別れを告げて苦惱の身を上京しようと寮を出る。一方その頃南は會場に行く途中を加納組の若い者に取卷かれて決闘を迫られていた。寮友戸川がこれを見て權藤や折よく通り合せた文代に危急を知らせる。文代は小野の下宿に馳けつけ、南の眞意を傳えると共に救いを求める。始めて總てを知つた小野はけんか場へ飛ぶ、さしもやくざ連も退却したが、南は傷ついた。

高農との試合の日、南は遂に起てず、病床で文代の溫かい看護を受け乍ら刻々の報導に氣をもんでいる。グランドでは、南の提言で救濟された酒井の豪快な應援の下に全ての苦惱から脫却した小野の元氣な顏を始め、權藤、戸川、そして淸水敎授等が手に汗して熱戰に一喜一憂していた

入荷御案內
天井板　吉野杉、秋田杉、もみ柾、網代
床柱　櫻、紅葉、ブナ、松、京都絞杉
床廻材　床緣（黑柿、けやき）床板（三尺六尺）棚間（黑柿）其他造作材一般
銘竹材　黑竹、絞竹、女竹、寒竹、磨竹、煤竹、鋳竹、淸水竹
▲在庫豊富御照會下さい▼
平市揚櫨小路一　電話三四一
色川製材機械店
銘木部

高級ライター　數種入荷
斯界の最高ポイント
高級プラチナ萬年筆　販賣中
[illegible]萬年筆店
▲修理は親切丁寧に▼
平市三丁目電三九九番

骨董　貴金屬　高價
寶石　和洋服　買入れ
◇和洋服特に若向高價御報參上
平市南町平館西隣
中央會館
（電話九一五）